

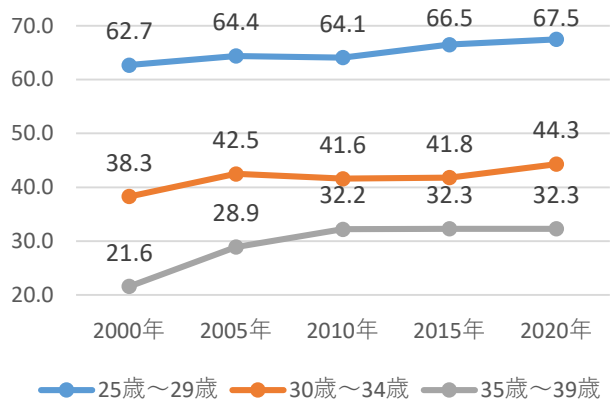
(参考資料) ライフステージごとの現状

3 ライフステージごとの現状

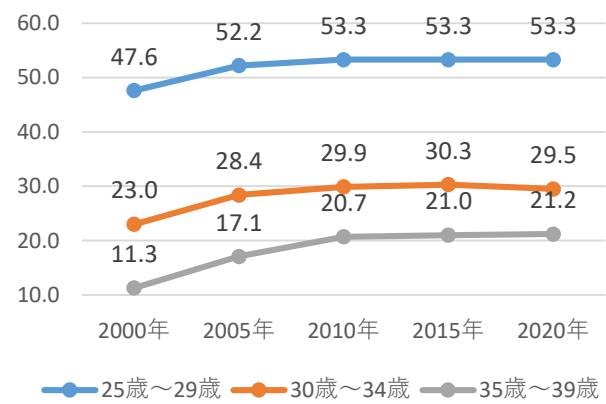


- 本市の未婚率は上昇傾向。特に25歳～34歳の割合が上昇し、未婚化が進行
- 平均婚姻年齢も上昇を続け、晩婚化が進行

男性未婚率の推移

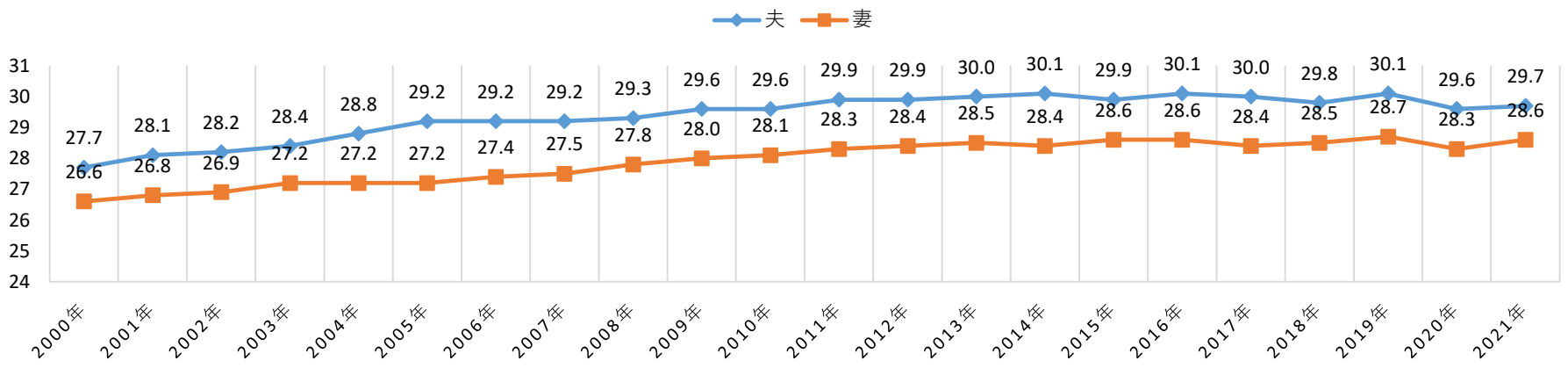


女性未婚率の推移



福山市「令和2年国勢調査」

平均婚姻(初婚者)年齢の推移



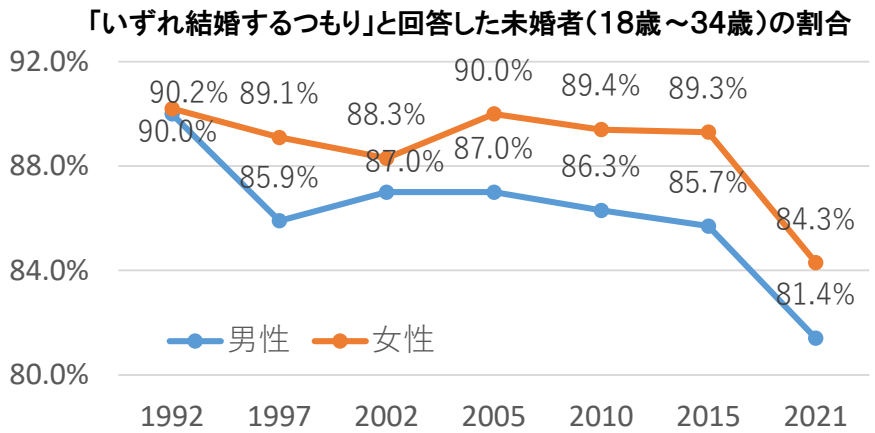
福山市「福山市人口動態」

3 ライフステージごとの現状



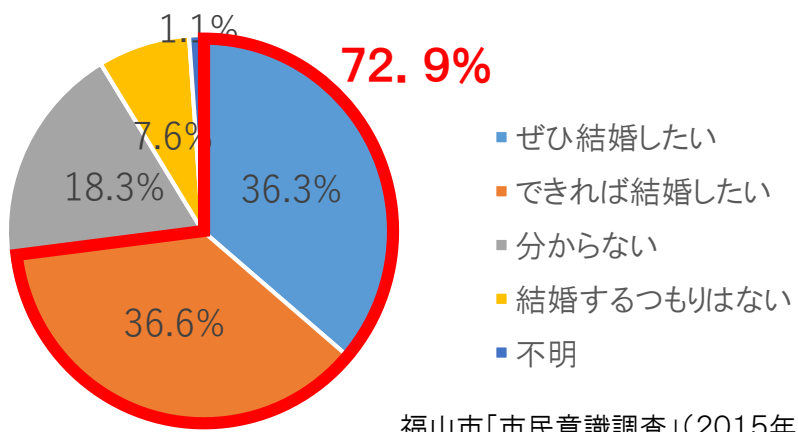
○多くの人は結婚に前向きだが、適切な相手にめぐり合えていない。

- ・ 全国調査では、「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚者が減少しているものの、8割以上が結婚するつもりと回答。現在独身でいる理由の多くは「適切な相手とまだめぐり合わないから」である。
- ・ 本市の調査においても、7割以上の未婚者が「結婚したい」と回答。結婚していない理由の多くは「ふさわしい相手とめぐり合わないから」である。



国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」(2021年)

未婚者(18歳～39歳の男女)の結婚に対する意向



福山市「市民意識調査」(2015年)

未婚者が挙げる結婚の利点

- 【18歳～34歳 男性】
 - ①精神的な安らぎの場が得られる 33.8%
 - ②自分の子どもや家族を持てる 31.1%
- 【18歳～34歳 女性】
 - ①自分の子どもや家族を持てる 39.4%
 - ②精神的な安らぎの場が得られる 25.3%

未婚者が独身でいる主な理由

- 【25歳～34歳 男性】
 - ①適切な相手とまだめぐり合わないから 43.3%
 - ②独身の自由さや気楽さを失いたくないから 26.6%
- 【25歳～34歳 女性】
 - ①適切な相手とまだめぐり合わないから 48.1%
 - ②独身の自由さや気楽さを失いたくないから 31.0%

国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」(2021年)

結婚していない主な理由(男女)

- 【25歳～29歳】
 - ①ふさわしい相手にめぐり合わないから 46.2%
 - ②経済的に不安だから 30.8%
- 【30歳～34歳】
 - ①ふさわしい相手にめぐり合わないから 70.6%
 - ②経済的に不安だから 35.3%

福山市「市民意識調査」(2015年)

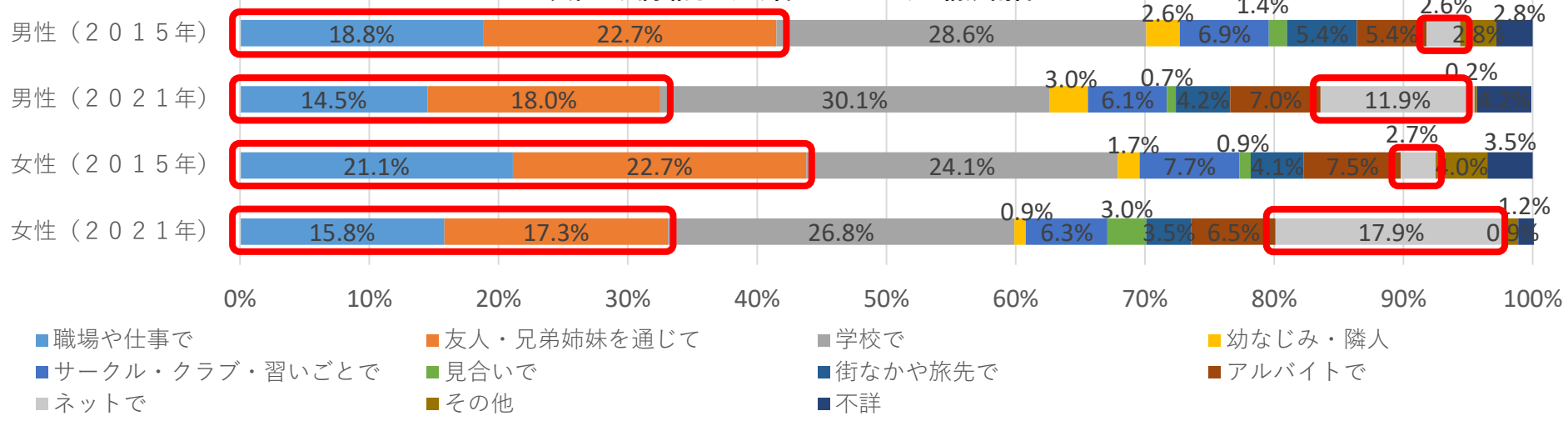
3 ライフステージごとの現状



○職場や友人からの紹介を通じた出会いが減少、ネットでの出会いは増加

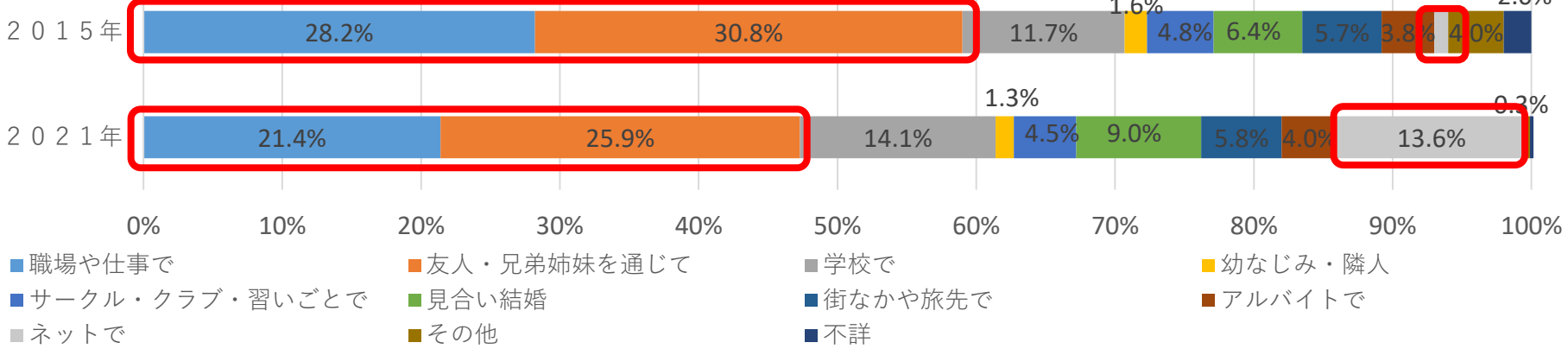
- 異性の交際相手と知り合ったきっかけや夫婦が知り合ったきっかけとして「職場や仕事で」「友人・兄弟姉妹を通じて」が減少し、「ネットで」が増加している。

異性の交際相手と知り合ったきっかけの構成割合



国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」(2021年)

夫婦が知り合ったきっかけの構成割合



国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」(2021年)

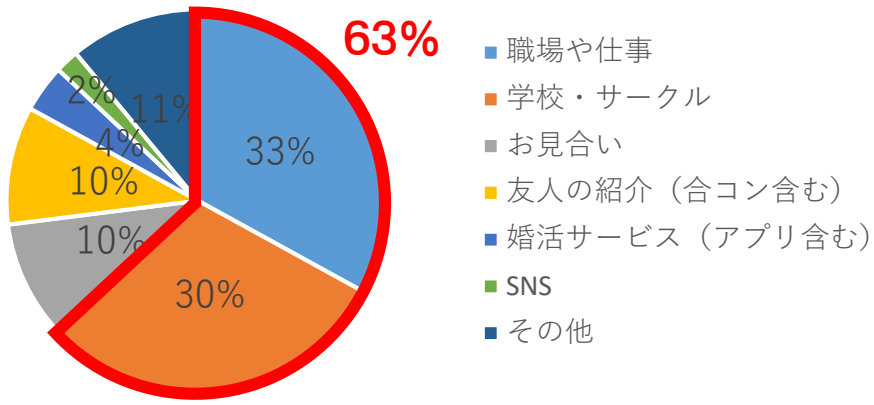
3 ライフステージごとの現状



○職場や学校など、対面での出会いを希望。結婚相手の条件は、対面で確認が必要な「人柄」「家事・育児力」を重視

- ・ 恋人との理想の出会いとして、「職場や仕事」「学校・サークル」を希望する人が多い。また、若い人の中にはマッチングアプリに抵抗感を感じている人もいる。
- ・ 結婚相手の条件として重視する項目は、男女ともに対面での確認が必要となる「人柄」「家事・育児の能力や姿勢」「仕事への理解と協力」が上位である。マッチングアプリで相手を探す際には「経済力」「職業」「容姿」などの画面で伝わる項目に着目するため、適当な相手と出会えてない可能性がある。

恋人が欲しい未婚者が理想とする出会い方



大学生や社会人の出会いに関する意見

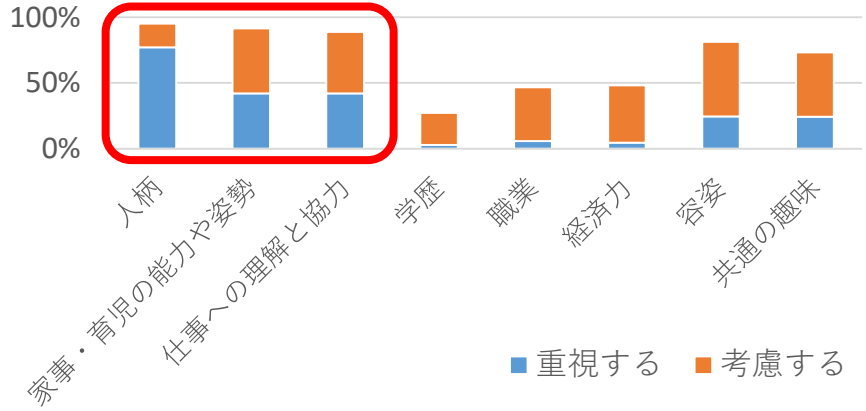
【大学生】
 ○コロナの影響で飲み会や合コンが減り、出会いがない。
 ○共通の趣味を通じた出会いや友人からの紹介で出会いたい。
 ○マッチングアプリは「婚活」のイメージが強く、抵抗感がある。

【社会人】
 ○社会人になって、学生の時より出会いが減った。
 ○共通の趣味や友人からの紹介で出会いたい。

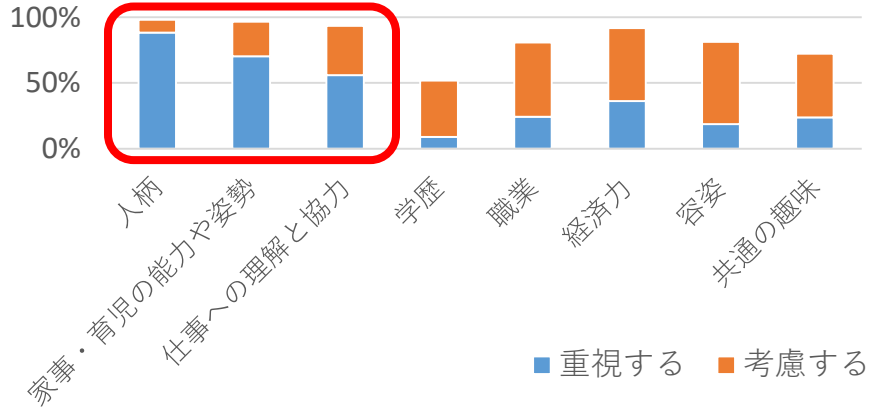
2023年6月・7月に大学生や社会人未婚者へのヒアリング結果(福山市)

大臣官房総合政策調査員コラム「未婚化の進行とマッチングアプリ」(2022年)

男性(18歳～34歳未婚者)が結婚相手の条件として重視・考慮する項目

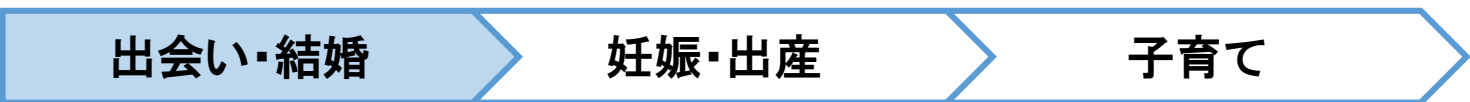


女性(18歳～34歳未婚者)が結婚相手の条件として重視・考慮する項目



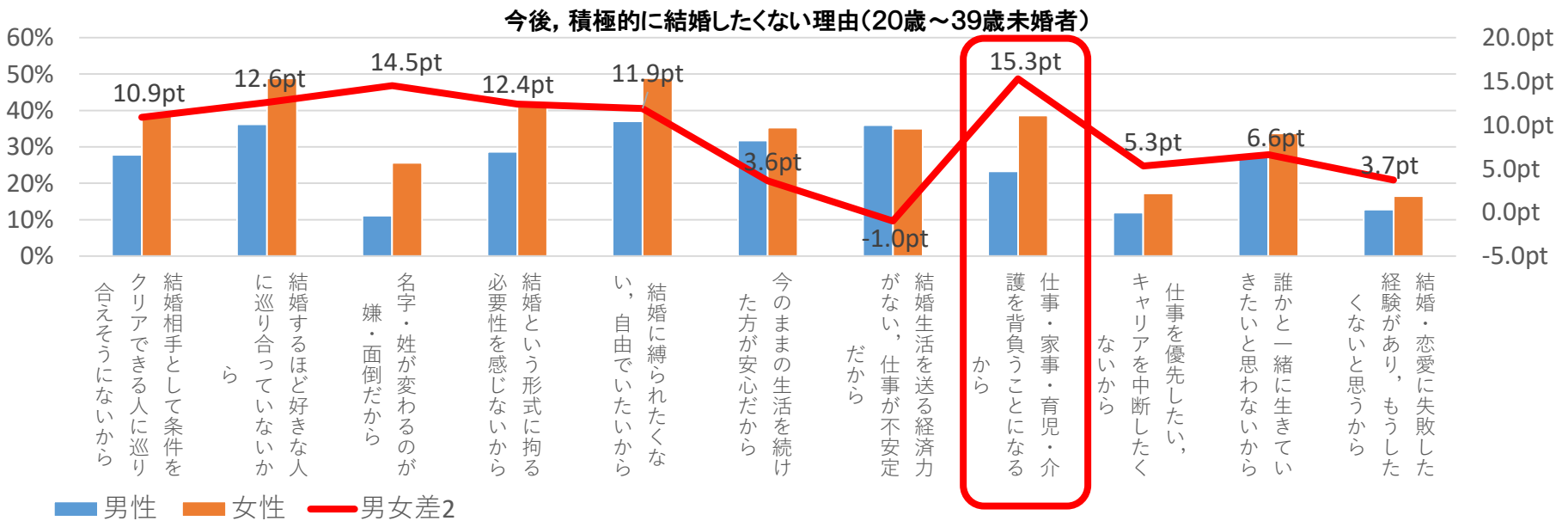
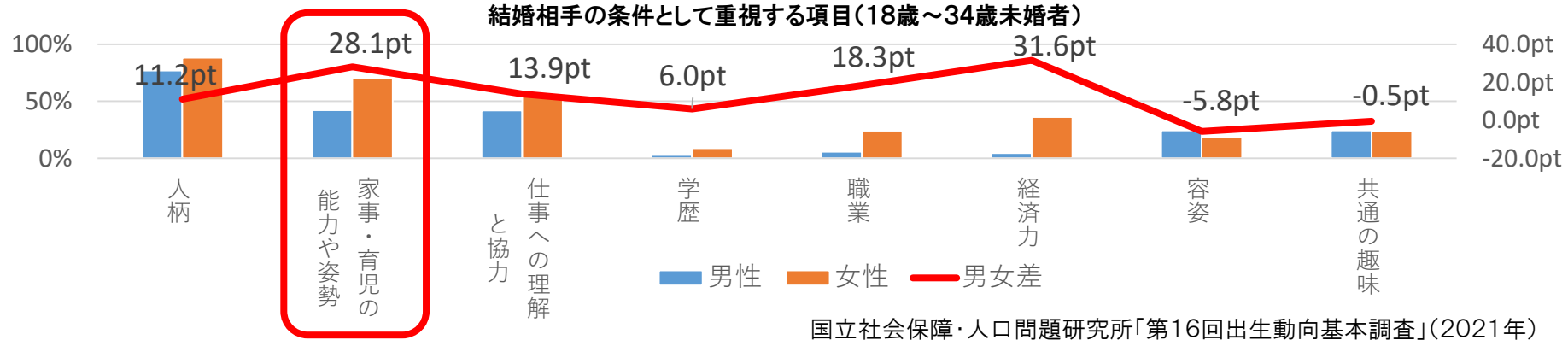
国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」(2021年)

3 ライフステージごとの現状



○女性の結婚したくない理由として「家事・育児等を背負うことになるから」の回答は多い。男女差は最も大きい。

- ・女性が結婚相手に求める条件として、「家事・育児の能力や姿勢」を重視する割合は高いが、男性は低い。
- ・女性の結婚したくない理由として、「仕事・家事・育児・介護を背負うことになるから」の割合は高いが、男性は低い。
- ・結婚するにあたって、家事・育児に対する男女の考え方にはギャップがある。



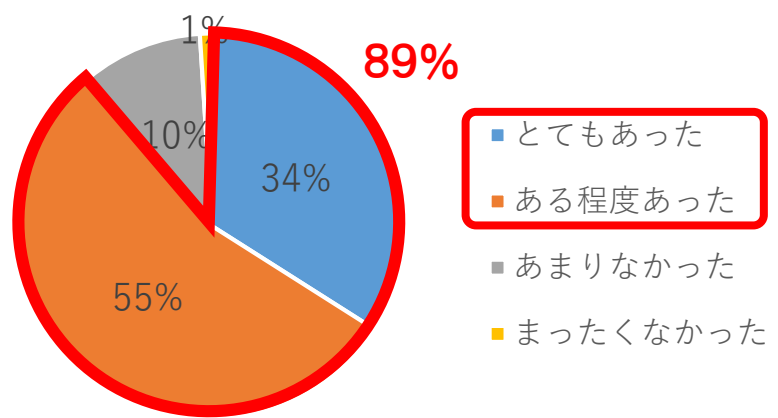
3 ライフステージごとの現状



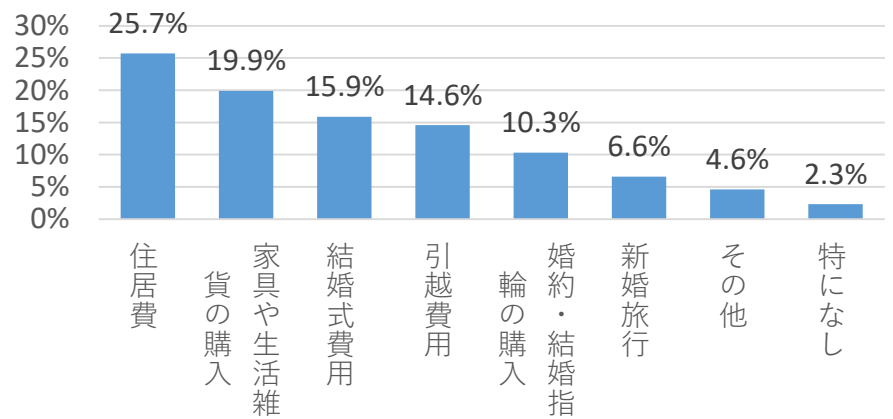
○結婚にあたって、経済的不安を抱えている人は多い。

- 結婚に当たって経済的不安を感じている人は、約9割。結婚の障害として「結婚資金」「結婚生活のための住居」を挙げる人が多い。

結婚にあたって経済的不安があった人の割合

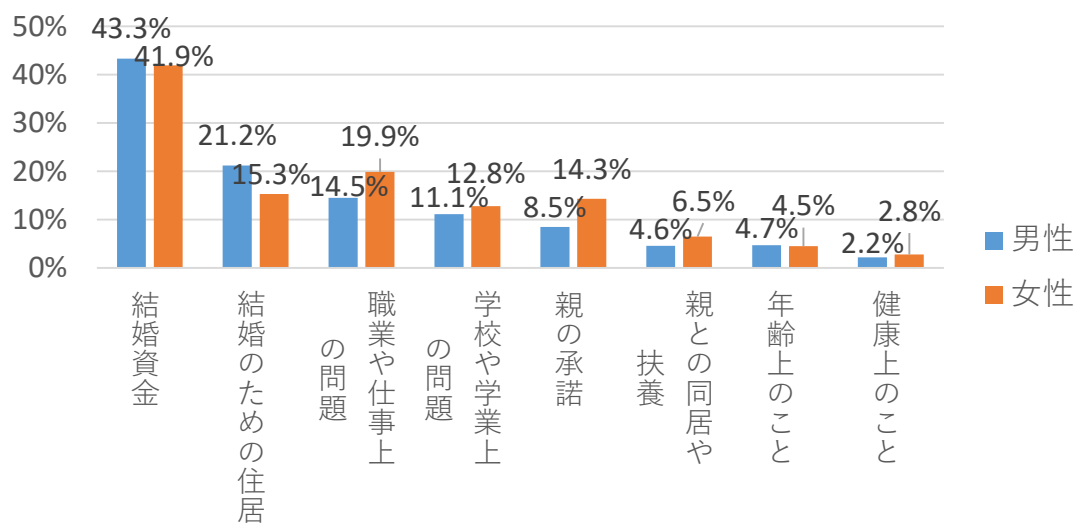


結婚に伴う経済的不安で思い浮かべるもの

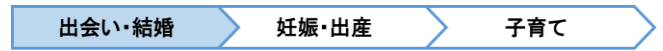


こども家庭庁「令和3年度結婚新生活支援事業に係るアンケート調査」

結婚意思のある未婚者が1年以内に結婚する場合の障害



少子化対策に関する外部有識者会議での意見交換に基づく論点



- 結婚を考えられる相手との出会いが必要なのではないか。
- 結婚後に発生する費用や家事・育児など、将来に対する不安を軽減できる支援策が必要ではないか。
- 男女ともに残業が多いことによる結婚後の家事への不安を抱えており、働き方改革の推進が必要なのではないか。
- 奨学金の返済等で結婚・出産などができない人への経済的負担の軽減策が必要なのではないか。

3 ライフステージごとの現状

出会い・結婚

妊娠・出産

子育て

大学生・社会人の声

対象：市内大学の学生，民間企業の若手職員（計21人）

日程：2023年（令和5年）6月12日，7月3日，7月6日 方法：対面での座談会形式

主な意見

○出会いの機会の現状

【大学生】

- ・コロナの影響で飲み会や合コンが減り，出会いがない。
- ・学部内やバイト先だけでは，出会いが限られる。
- ・マッチングアプリは「婚活」のイメージが強く，抵抗感がある。

【社会人】

- ・社会人になって学生の頃より出会いが減った。
- ・職場内には同年代の未婚者が少なく出会いがない。
- ・アプリで出会い結婚した知り合いもいる。

○理想とする相手

【大学生】

- ・収入よりも価値観が合うかを重視する。
- ・家事の分担ができる人
- ・安定した職業に就いている人

【社会人】

- ・趣味や価値観が合う人
- ・金銭感覚や生活するうえでの感覚が合う人
- ・家事分担などについて話し合いができる人

○理想とする出会い方

【大学生】

- ・共通の趣味（ライブやスポーツサークル，カフェなど）を通じた出会いや友人からの紹介で出会いたい。
- ・同窓会という形での出会いも良いと思う。

【社会人】

- ・共通の趣味（スポーツ観戦やキャンプなど）を通じた出会いや友人からの紹介で出会いたい。
- ・同窓会や異業種交流会など，なるべく自然に出会いたい。

○結婚に対する考え

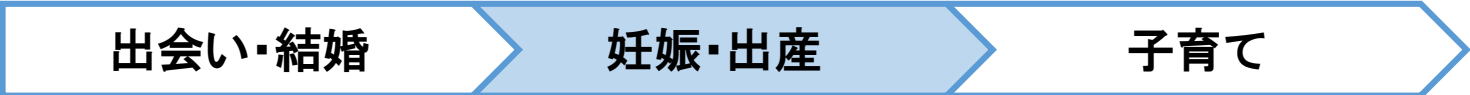
【大学生】

- ・30歳までに結婚したいと思っている。
- ・結婚は仕事に慣れて，経済的にも安定してからが良い。
- ・結婚したら希望どおりに働けないのではないかと不安。

【社会人】

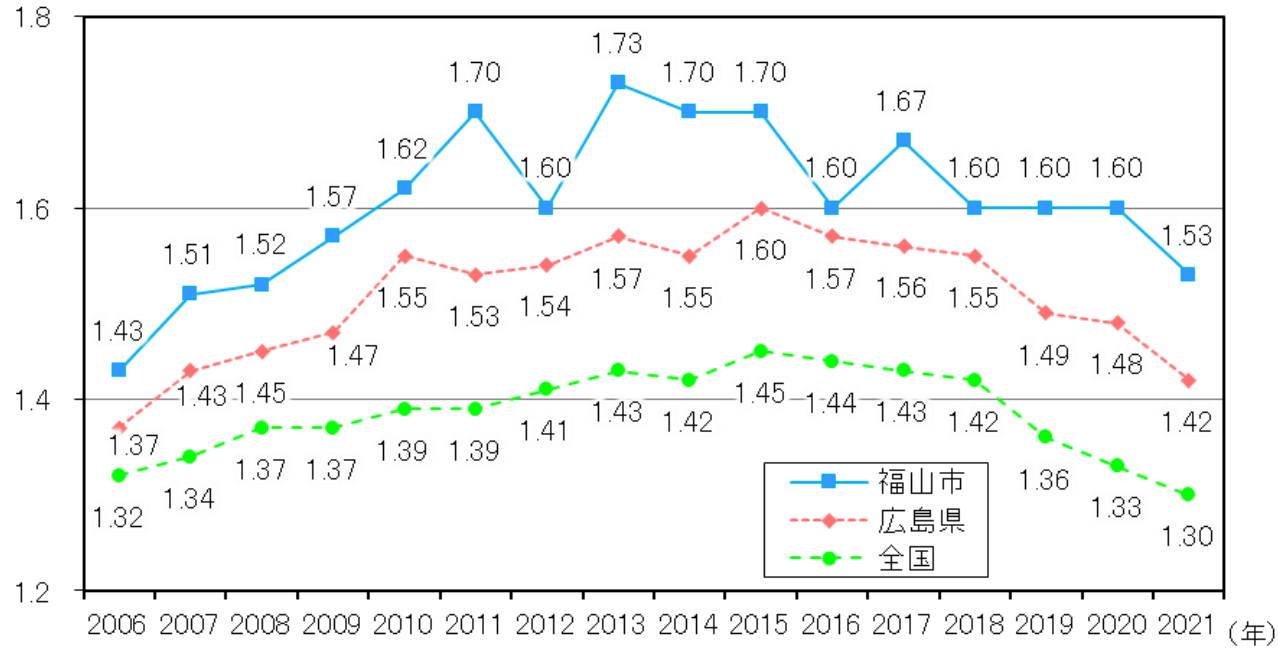
- ・早めに結婚したいと思っているが，40歳までに結婚できなかったら，結婚しないかもしれない。
- ・結婚することで自分の時間が減るのが不安。

3 ライフステージごとの現状



- 合計特殊出生率は、全国や広島県と比べて高い数値を維持しているものの、徐々に減少
- 希望出生率との差も拡大

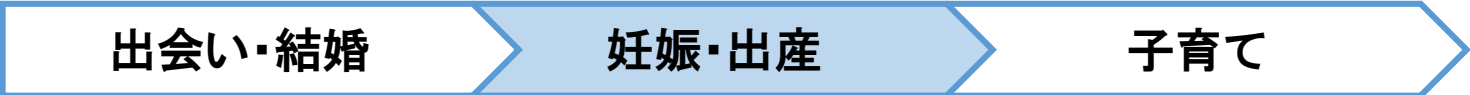
合計特殊出生率(15~49歳の女性の年齢別出生数の合計)



福山市「福山市人口動態」

(参考)
福山市の希望出生率:1.90(2019年)

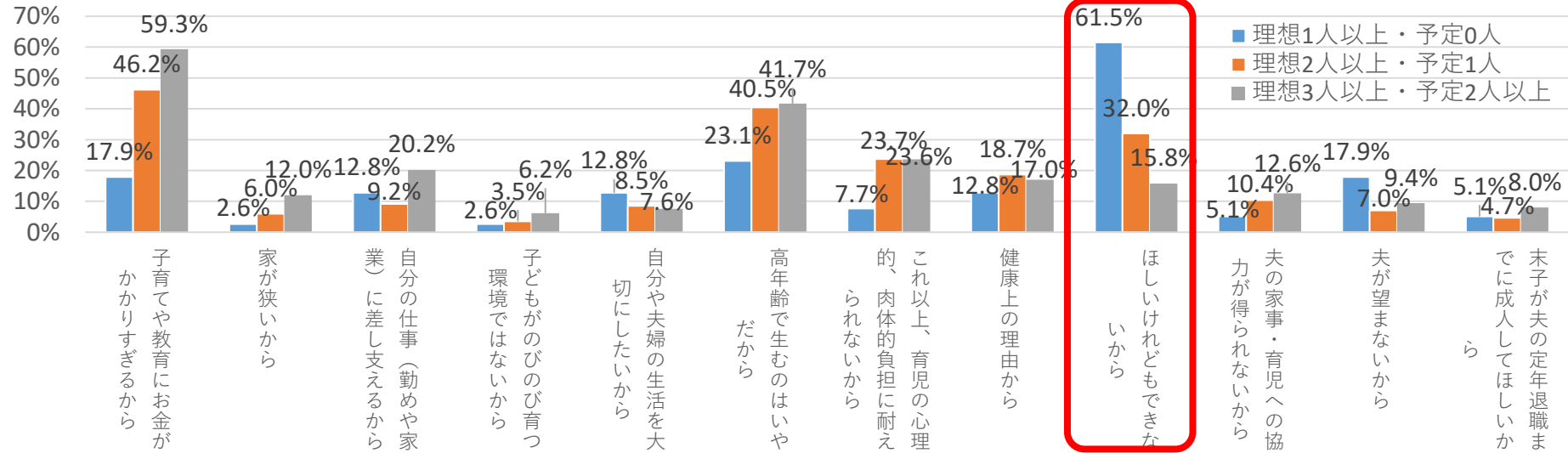
3 ライフステージごとの現状



○不妊治療を受けにくいと回答する人も多く、主な理由として「治療費の負担が大きいから」の回答が多い。

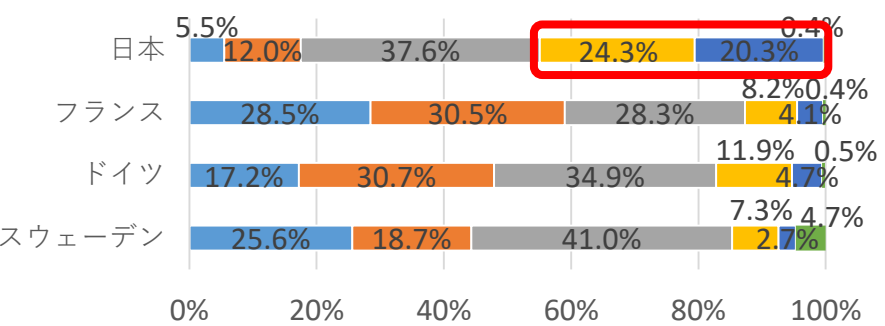
- 子どもを持ちたいと思っているが、予定は0人の夫婦の持たない理由としては、「ほしいけれどもできないから」が最も多い。
- 「ほしいけれどもできない」と回答した人は、不妊治療を行っていると考えられるが、日本の不妊治療の環境は受けやすくないと回答する人が、諸外国と比較して多く、主な理由は経済的負担である。

理想の子ども数を持たない理由(理想と予定子ども数の組み合わせ別)



国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」(2021年)

不妊治療を受けやすい環境だと思うか



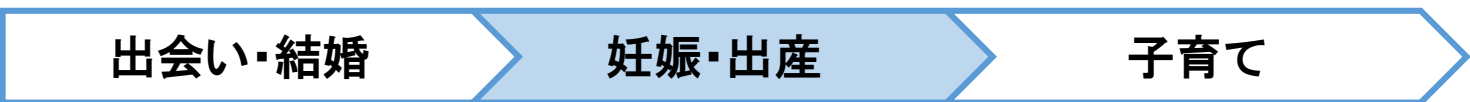
受けにくい主な理由

- 【日本の回答】
- ①治療費の負担が大きいから 91.8%
 - ②仕事に影響するから 49.0%
 - ③身体的な負担が大きいから 47.1%

※2022年4月から不妊治療は保険適用

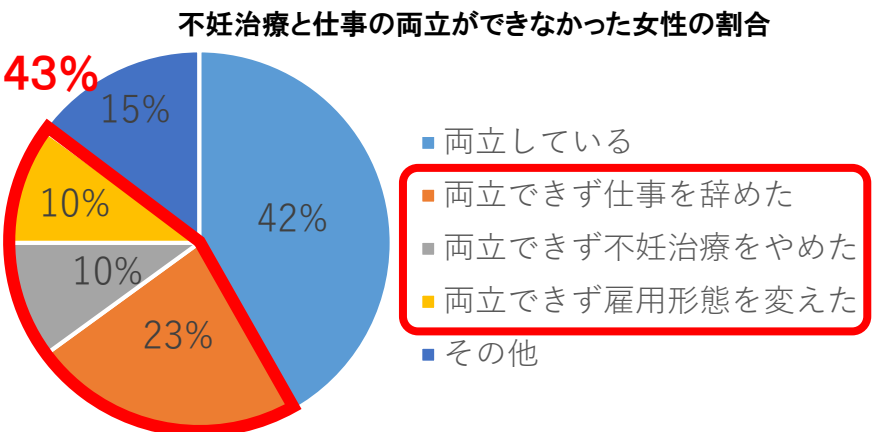
内閣府子ども・子育て本部「令和2年度少子化社会に関する国際意識調査」

3 ライフステージごとの現状



○不妊治療と仕事の両立ができなかった女性は多く、両立に向けた職場づくりが進んでいないことも一つの要因

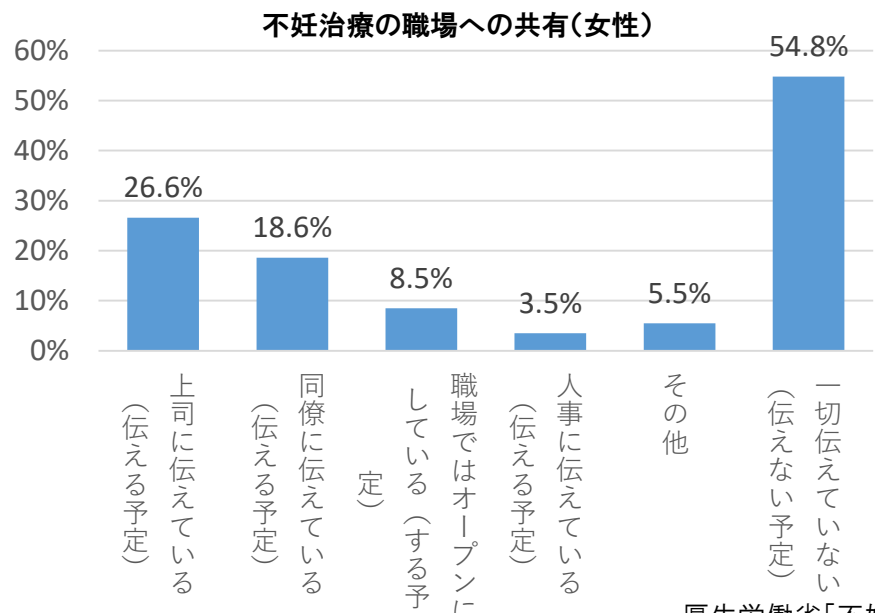
- ・不妊治療と仕事の両立ができなかった女性は43%。両立できなかった理由は、通院回数や精神面・体力面が多い。
- ・職場に伝えていない女性は5割以上と多く、主な理由は「知られたくない」「気遣いをして欲しくない」である。職場での普及啓発が実施されていないことが要因の一つとして考えられる。



両立できなかった主な理由(女性)

- ①通院回数が多いため 60.0%
- ②精神面で負担が大きいため 54.7%
- ③体調・体力面で負担が大きいため 48.0%

治療内容	通院日数の目安 (本調査のアンケート用紙に記載されていた内容を転記)	
	女性	男性
検査	4日～(1回の所要時間は30～120分)	半日～1日
人工授精	2～6日/月 1回あたりの通院時間は数時間(通常6程度まで)	0～半日 ※手術を伴う場合は1日
体外受精	4～10日:1回あたり数時間 + 2日:1回あたり半日～1日(回数, 頻度は人による)	0～半日 ※手術を伴う場合は1日



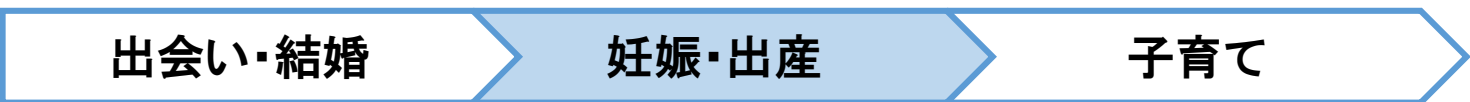
職場に伝えていない主な理由(女性)

- ①不妊治療をしていることを知られたくないから 42.9%
- ②周囲に気遣いをして欲しくないから 42.3%
- ③不妊治療がうまくいかなかった時に職場に居づらいから 30.2%

企業での不妊治療と仕事の両立に関する普及啓発の実施状況

- ①実施していない 97.8%
- ②普及啓発資料の整備・公表 1.6%
- ③従業員向け研修の実施 0.5%
- ④管理職向け研修の実施 0.3%

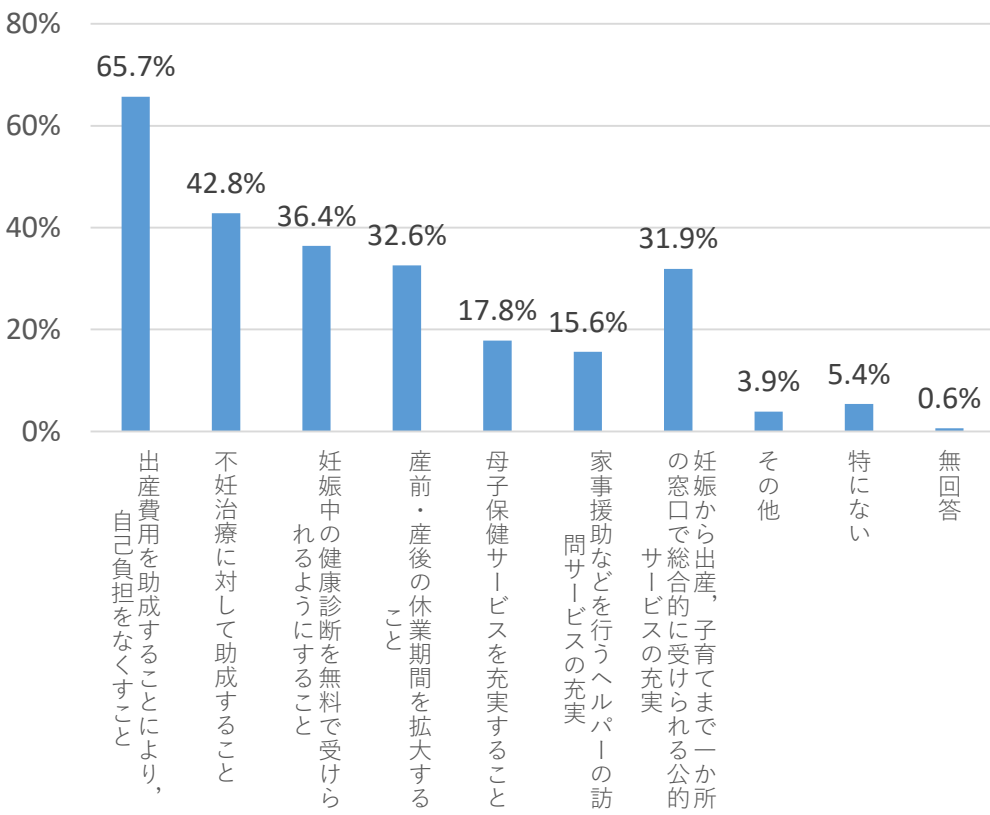
3 ライフステージごとの現状



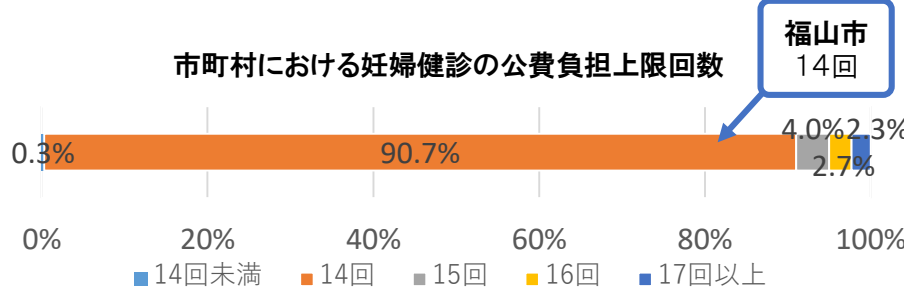
○妊娠・出産時の負担軽減策として、出産費用の助成や妊婦健診の無料化などを求める人が多い。

- ・妊娠・出産期に求められる負担軽減策としては、出産費用の助成や妊娠中の健康診断の無料化などが多い。
- ・妊婦健診はほとんどの市町村で14回以上助成されており、実施回数に応じた負担が概ねなされているが、約6割の医療機関で助成対象とならない追加検査が実施されている。

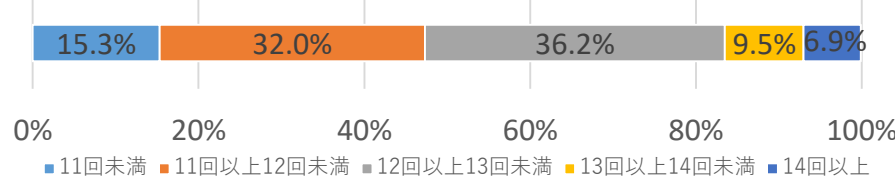
妊娠・出産時の身体的・精神的・経済的負担を軽減する施策として重要な項目



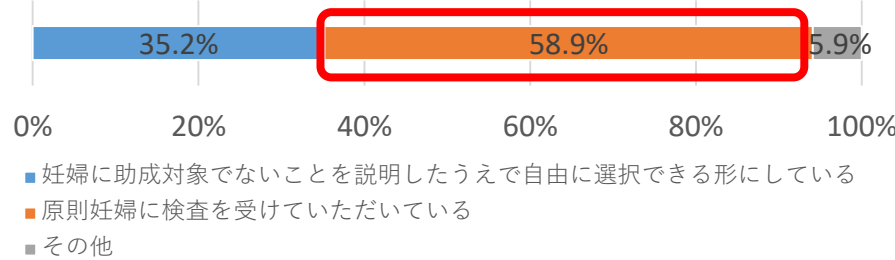
市町村における妊婦健診の公費負担上限回数



妊婦1人当たりの実際の公費負担実施回数



医療機関における公費負担とならない追加検査の受診有無



3 ライフステージごとの現状

出会い・結婚

妊娠・出産

子育て

○全国や広島県、他の医療圏と比べて、分娩取扱医師や小児科医師などが少ない。分娩取扱医療機関も減少

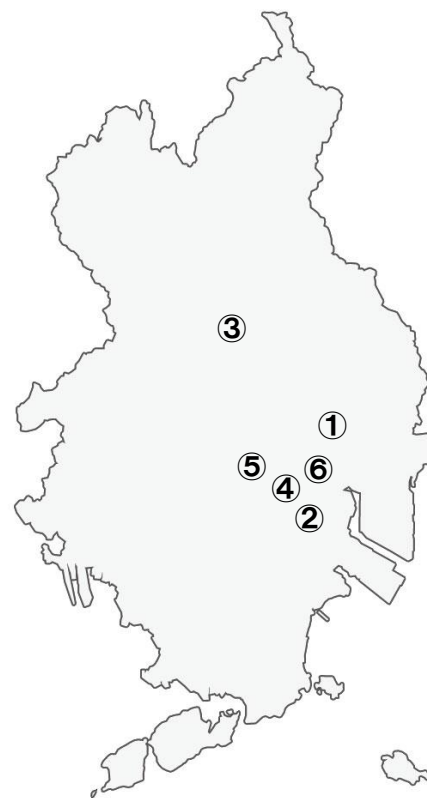
- ・安心して子どもを産み育てるための医療提供体制として、産科・小児科の確保は必須であるが、2023年度の福山・府中二次保健医療圏の医師偏在指標においては、全国や広島県、他の医療圏と比べて医師が少ない状況である。
- ・本市の分娩取扱医療機関は、現在6施設まで減少している。(2023年4月1日時点は8施設)

都道府県・二次保健医療圏別 医師偏在指標

区分		医師	小児科医師	分娩取扱医師
都道府県	全国	255.6	115.1	10.6
	広島県	254.2	101.1	8.6
	岡山県	299.6	124.3	10.3
二次保健医療圏	広島	298.9	104.7	9.9
	広島西	239.1	148.5	3.9
	呉	266.7	116.6	9.9
	広島中央	200.4	75.4	6.0
	尾三	198.2	93.4	9.4
	福山・府中	201.3	84.4	7.6
	備北	219.8	107.5	9.1
	県南西部	292.8	121.6	12.8

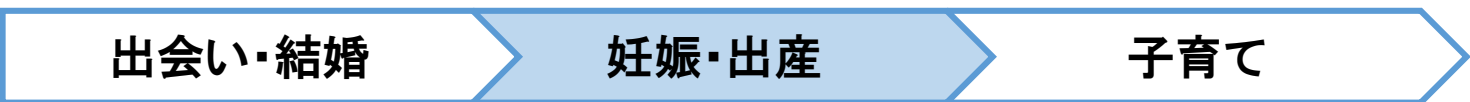
福山市の分娩取扱医療機関

	医療機関名
①	福山市民病院
②	福山医療センター
③	中国中央病院
④	小池病院
⑤	松岡病院
⑥	白河産婦人科



厚生労働省「医師偏在指標(都道府県別・二次医療圏別)」(2023年)
 厚生労働省「小児科医師偏在指標(都道府県別・小児医療圏別)」(2023年)
 厚生労働省「分娩取扱医師偏在指標(都道府県別・周産期医療圏別)」(2023年)

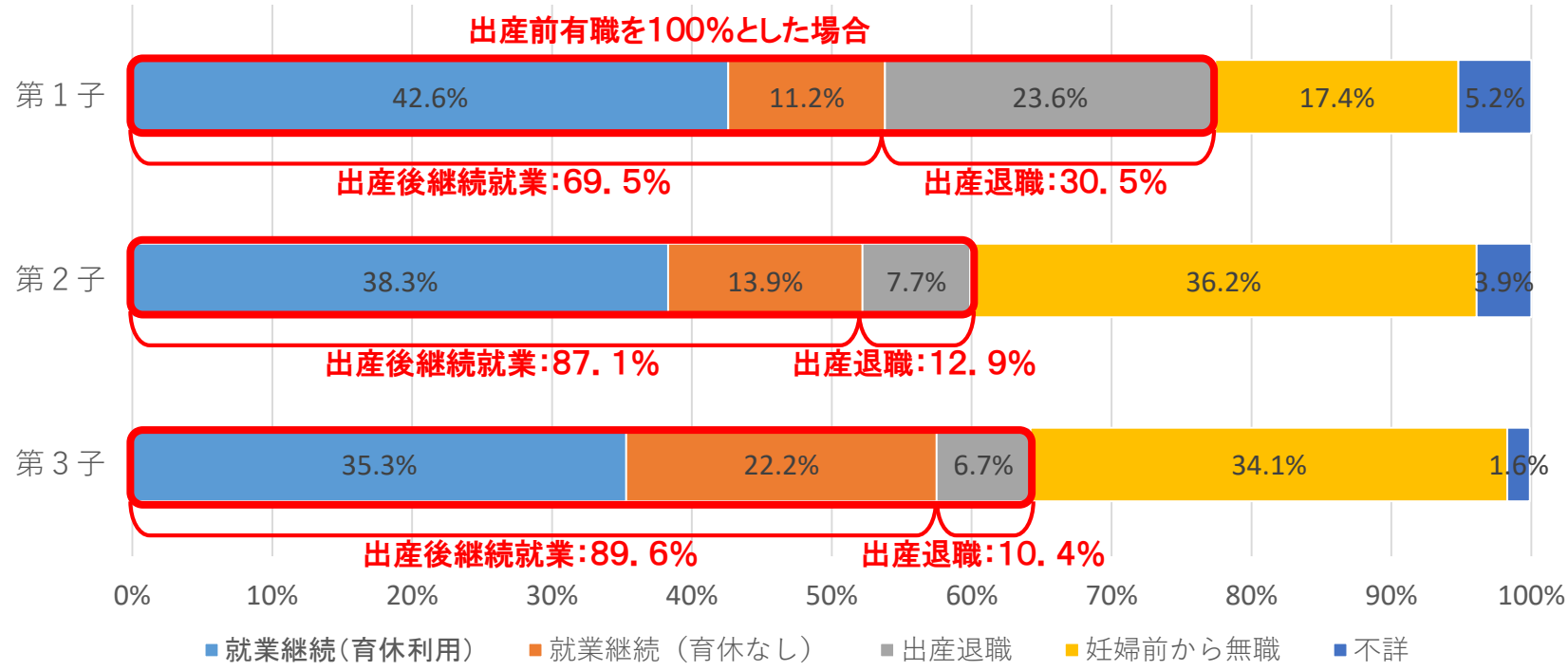
3 ライフステージごとの現状



○育児と仕事の両立が難しく、出産後に退職する女性は多い。

- ・ 出産前に就業していた女性の約3割が第1子出産後に退職している。
- ・ 妊娠・出産等を理由とした具体的な離職理由としては、「仕事と育児の両立が難しかったため」が多い。

子どもの数別にみた出産前後の妻の就業状況



国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」(2021年)

妊娠・出産等を理由とした主な具体的な離職理由(女性離職前正社員)

- ①仕事を続けたかったが、仕事と育児の両立が難しかったため 45.8%
- ②家事・育児に専念するため 26.8%

日本能率協会総合研究所(厚労省委託事業)「令和4年度 仕事と育児の両立等に関する実態把握のための調査研究事業」

少子化対策に関する外部有識者会議での意見交換に基づく論点

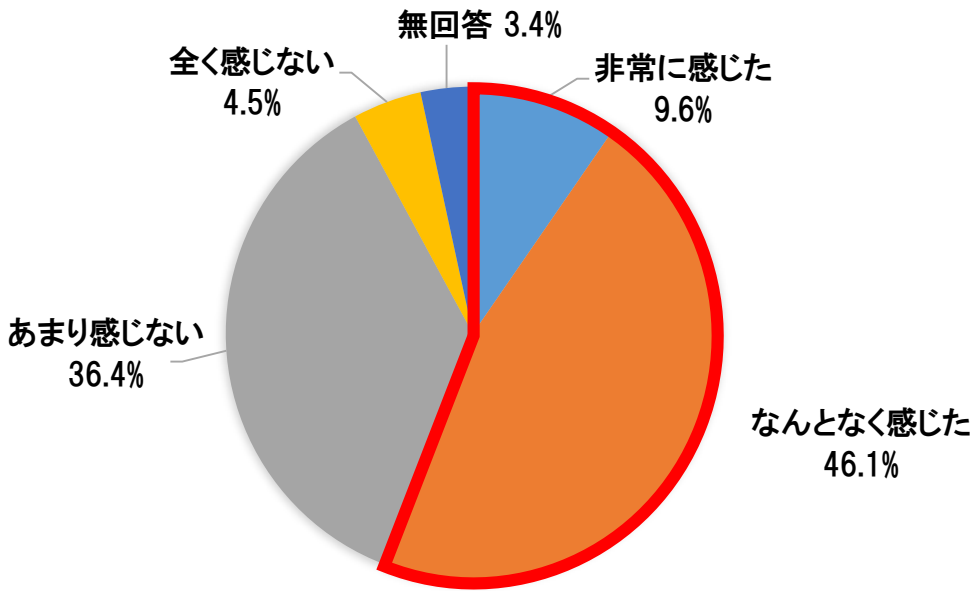
○妊娠・出産の希望はあるが、仕事などに影響が出ることへの支援策が必要なのではないか。

3 ライフステージごとの現状

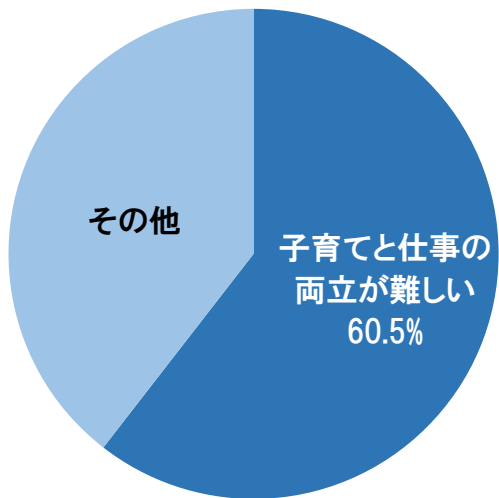


- 市民の半数以上が、子育てに対して不安や負担を感じ、その主な理由は経済的負担
- 女性の約6割が子育てと仕事の両立が難しいと感じ、未婚化や晩婚化、合計特殊出生率の低下に影響

子育てに関して不安や負担を感じた人の割合



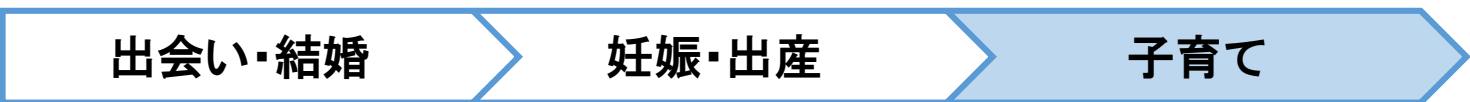
子育てと仕事の両立



子育てに関してもっとも悩んでいることや気になること

1位	子育てや教育にお金がかかりすぎること
2位	病気や発育・発達に関すること
3位	こどもとの時間を十分にとれないこと

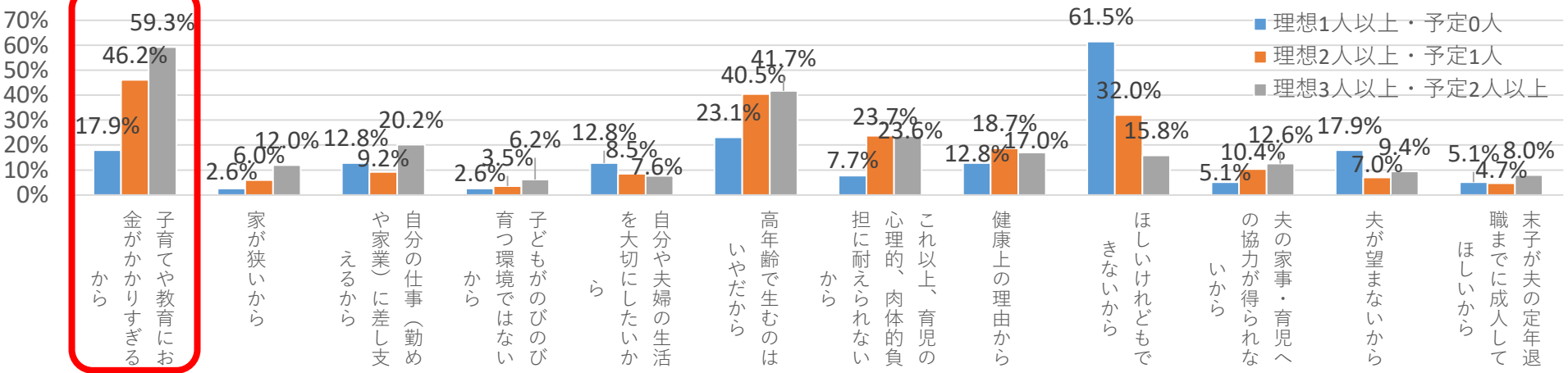
3 ライフステージごとの現状



○理想の子どもを持つための条件として、保育費用・教育費・医療費の負担軽減を求める人が多い

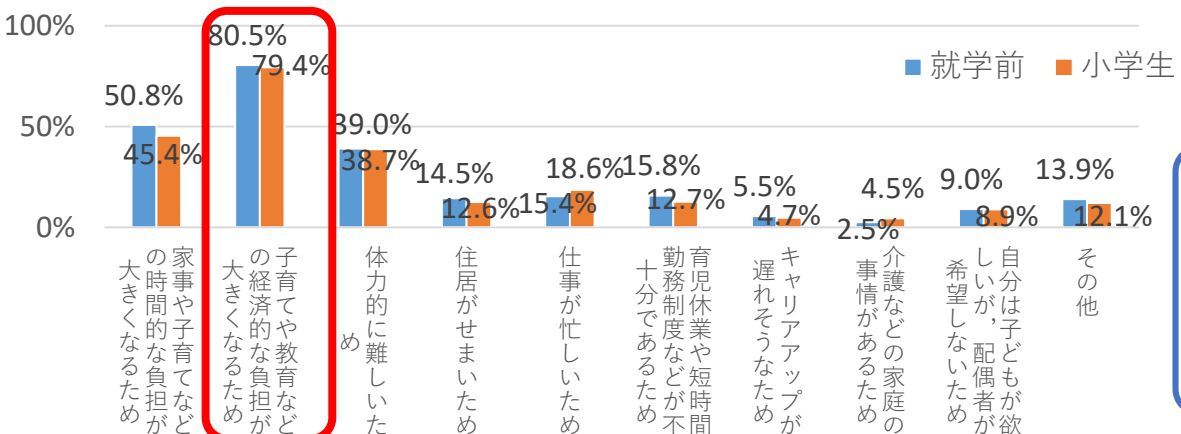
- ・ 全国調査や本市の調査においても、理想の子ども数を持たない理由として「経済的負担」を挙げる割合が高い。
- ・ 本市の調査では理想の子ども数を持つための条件として、保育費用・教育費・医療費の負担軽減を挙げる割合が高い。

理想の子ども数を持たない理由(理想と予定子ども数の組み合わせ別)



国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」(2021年)

子どもの人数に理想と現実の差がある理由(就学前児童及び小学生児童の保護者別)



理想の子ども数を持つための条件

- ①子どもの保育費用の負担軽減 72.0%
- ②子どもの教育費の負担軽減 60.0%
- ③子どもの医療費の助成充実 53.6%
- ④勤務時間の短縮などワークライフバランスの改善 49.6%
- ⑤保育サービスの充実など子育て環境の整備 37.6%
- ⑥妊娠や出産に関する費用の助成充実 37.6%

福山市「子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」(2018年)

福山市「市民意識調査」(2015年)

3 ライフステージごとの現状



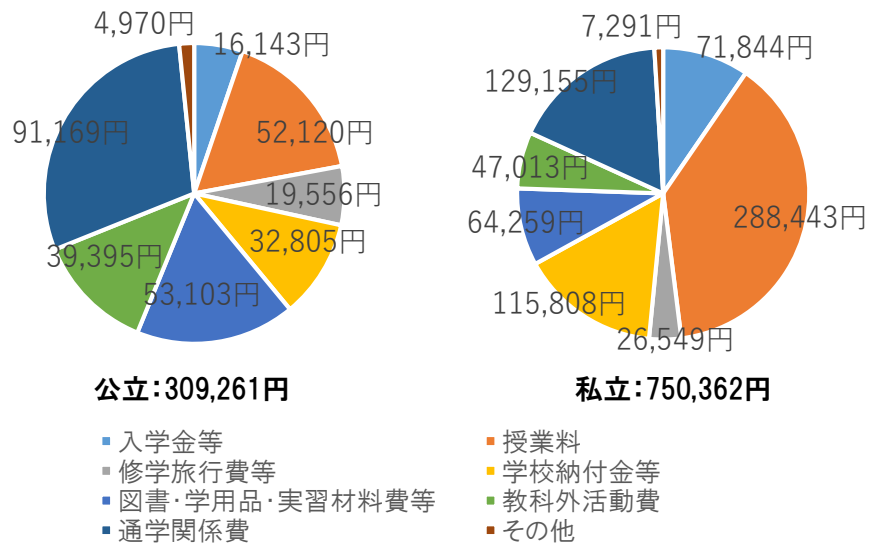
○子育てにおいて教育費用の割合は高い。奨学金の返済には長い期間を要する

- 子育てに係る費用の中で、小学校から大学までの教育費(学校外活動費も含む)が多くの割合を占めており、公立と私立によっても、学校教育費や学校外活動費等が大きく異なる。
- 本市の大学進学に係る奨学金制度の利用者は毎年一定数いる。なお、返還に13年程度の期間を要している人がいる。

学校種別の学習費総額

区分		学習費総額	学校教育費	学校給食費	学校外活動費
小学校	公立	352,566円	65,974円	39,010円	247,582円
	私立	1,666,949円	961,013円	45,139円	660,797円
中学校	公立	538,799円	132,349円	37,670円	368,780円
	私立	1,436,353円	1,061,350円	7,227円	367,776円
高等学校(全日制)	公立	512,971円	309,261円	—	203,710円
	私立	1,054,444円	750,362円	—	304,082円

公立・私立高等学校における学校教育費の内訳



文部科学省「令和3年度子供の学習費調査」

福山市における大学進学に係る奨学金制度

奨学金名	概要	奨学金名	概要
福山市奨学資金 (2022年度実績) 新規:8人 継続:35人	経済的理由により大学等での就学が困難な方へ貸与 ①入学準備金 50万円以内 ②月額貸付金 国公立4万円 私立6万円 平均返還年数 13年程度	福山市青少年修学応援奨学金 (2022年度実績) 受験資金:10人 入学準備:11人	経済的理由により大学等の受験や入学が困難な方へ受験資金や入学準備金を貸与 ①受験資金 最大20万円 ②入学準備金 最大80万円 ※返還免除の規定あり

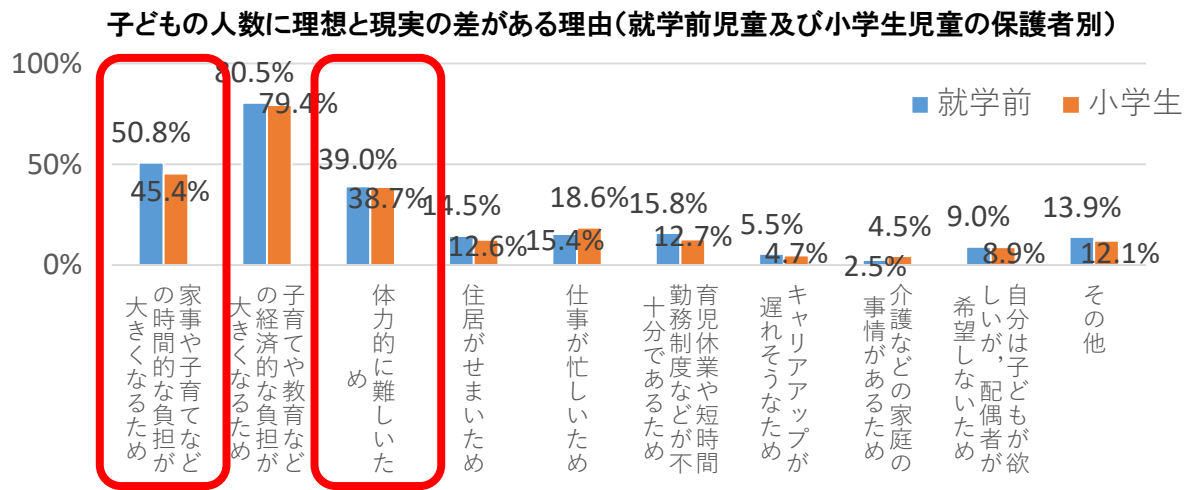
※その他に「未来創生人材育成奨学ローン返済補助」として、将来福山市で活躍してくれる市外大学に通う学生の奨学ローン返済補助制度がある(デジタル人材, 看護師, 保育士, グローカル人材に限る)

3 ライフステージごとの現状



○父親の家事・育児の時間は母親に比べ、極端に短い。育児休業を取得している人も少ない。

- 理想の子ども数を持たない理由として「家事・育児の負担」「体力面」を挙げる割合も高い。全国及び広島県の調査において、家事・育児の時間が父親は極端に短く、また、本市の調査で約9割の父親が育休を取得していない状況がわかる。
- 妊娠中から生後2か月までの間に、休暇を取っているのに、家事・育児をしなかった父親が約4割存在する。



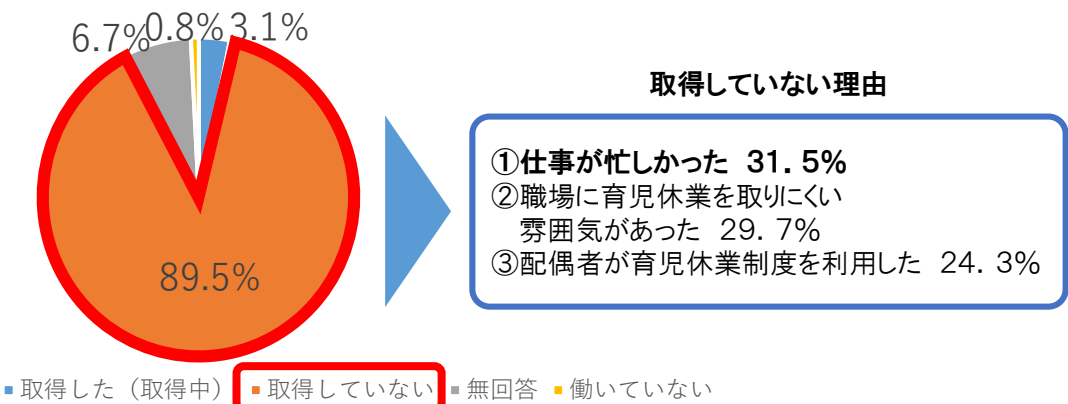
子どもをもつ夫婦の家事・育児時間(週全体平均)

		全国	広島県
家事時間	夫	30分	23分
	妻	2時間58分	2時間36分
育児時間	夫	1時間 5分	1時間 3分
	妻	3時間54分	3時間39分

総務省・広島県「令和3年社会生活基本調査」

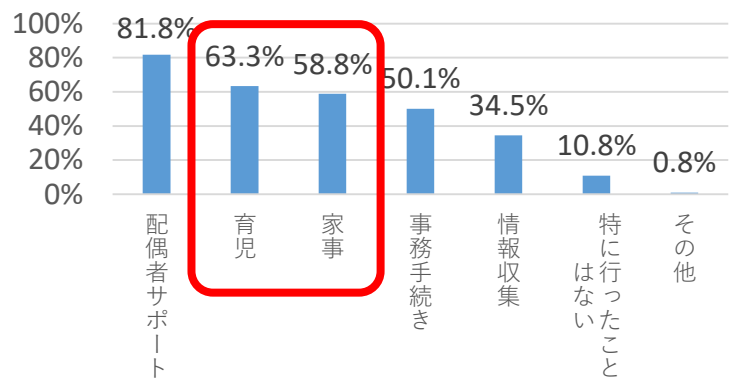
福山市「子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」(2018年)

父親の育児休業取得の状況(就学前児童の保護者)



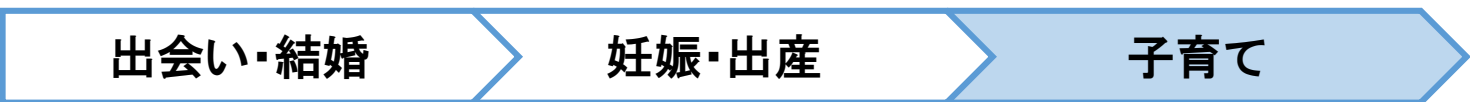
福山市「子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」(2018年)

父親が妊娠中から生後2か月までの間に休暇を取得し行ったこと



内閣府「男性の子育て目的の休暇取得に関する調査」(2019年) ¹⁷

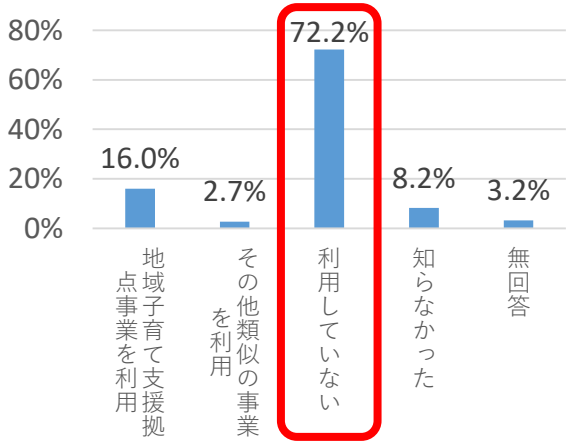
3 ライフステージごとの現状



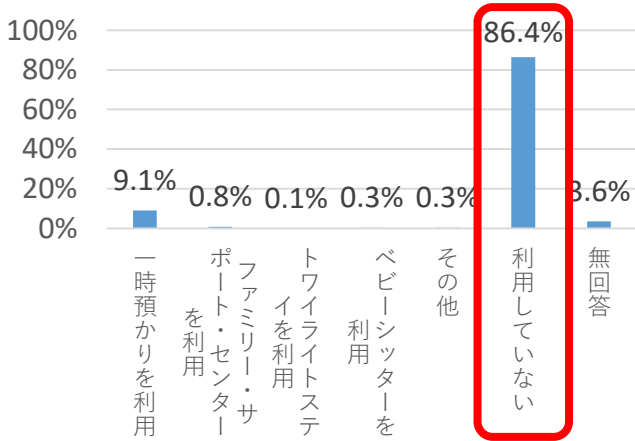
○祖父母との同居・近居が子育てや仕事のしやすさに大きく影響

- 理想の子ども数を持たない理由で「家事・育児の負担」「体力面」を挙げる割合は高いが、地域子育て支援拠点等を知っているにもかかわらず利用している人は少ない。
- 日頃から親族に子どもを見てもらえる人は多い。また、祖父母との同居・近居は子育てや仕事のしやすさに大きく影響する。

地域子育て支援拠点事業等の利用状況(就学前児童の保護者)



一時預かり等の利用状況(就学前児童の保護者)

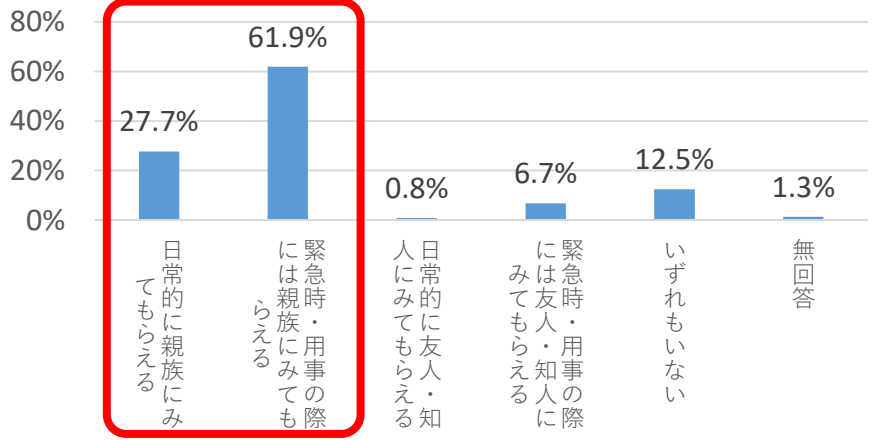


夏休みなどの長期休暇中に放課後児童クラブを利用していない理由(小学生児童の保護者)

- ①子どもをみることができるから 42.7%
- ②子どもだけで留守番ができるから 31.4%
- ③親族に子どもをみてもらえるから 29.9%

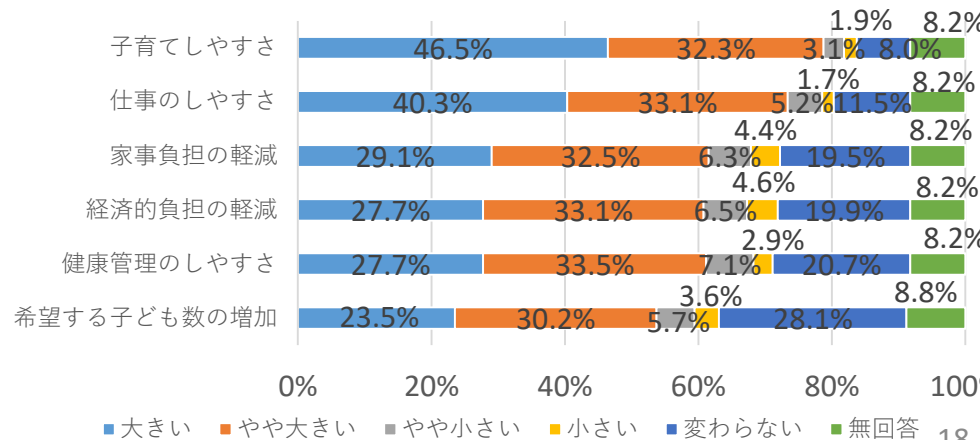
福山市「子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」(2018年)

日頃、子どもを預かってもらえる人の有無



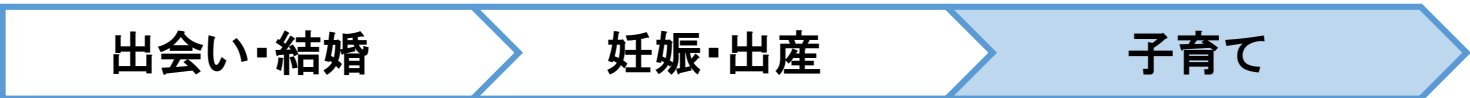
福山市「子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」(2018年)

祖父母との同居・近居による子育て世帯への影響



福山市「第2回福山市市政モニター調査」(2021年)

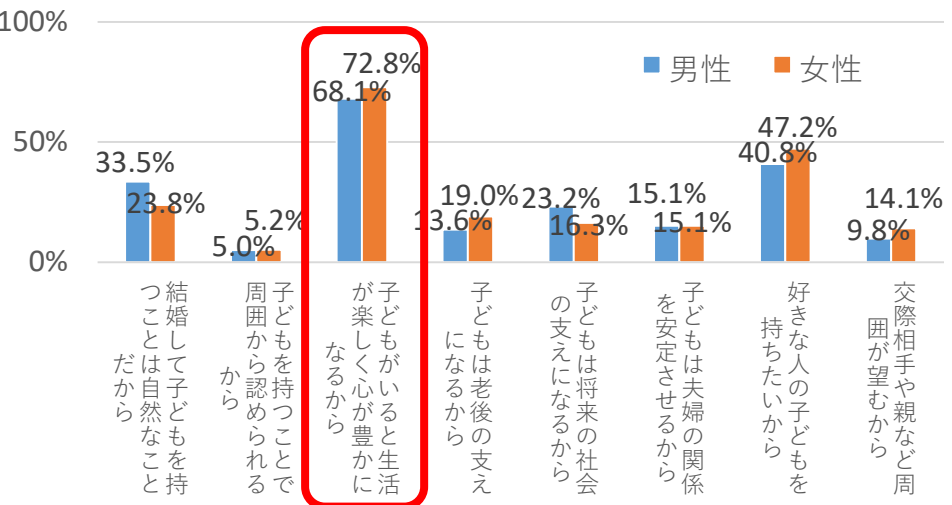
3 ライフステージごとの現状



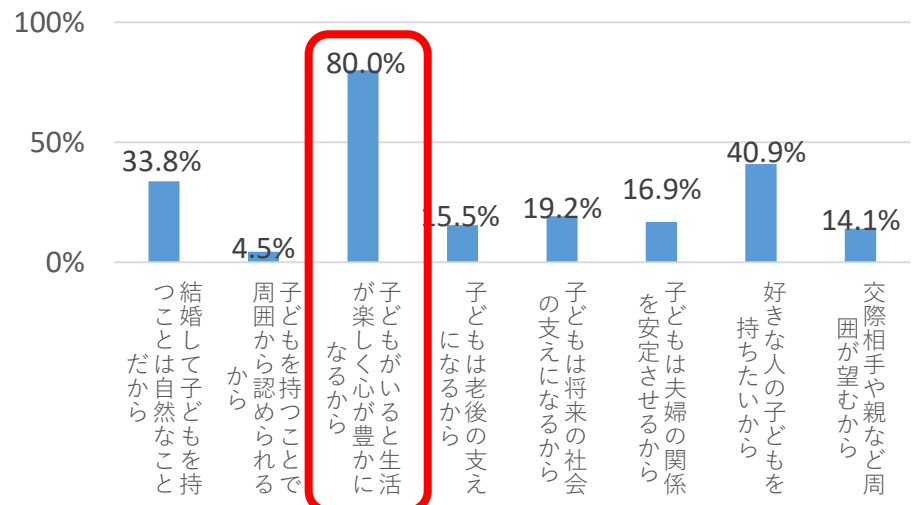
○子どもを持ちたい理由に「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」と回答する人が多い

- ・未婚者も結婚している夫婦も子どもを持ちたいと思う理由として「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」の回答が多く挙がっている。

未婚者が子どもを持ちたいと思う理由

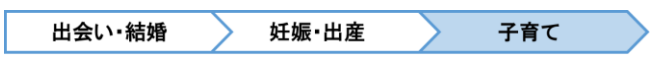


夫婦が子どもを持ちたいと思う理由



国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」(2021年)

少子化対策に関する外部有識者会議での意見交換に基づく論点



- 子育てに休みがなく、自分の時間もない状況を支援・改善する必要があるのではないか。
- 夫婦で子育てできるよう育休取得しやすい職場環境づくりなど、企業との連携が必要なのではないか

- 子どもの人数に合わせて経済的負担が大きくなるため、希望の子育てができるよう支援が必要なのではないか。
- 家事・育児は母親という考えを持っている人の意識を変える必要があるのではないか。
- 祖父母や近所の人との協力が得られる地域・環境づくりが必要なのではないか
- 保育士確保や学童の送迎時間延長などが必要なのではないか
- 室内で広い子どもの遊び場が必要なのではないか

3 ライフステージごとの現状

出会い・結婚

妊娠・出産

子育て

妊産婦の声

対象：2022年(令和4年)4月1日～2023年(令和5年)1月19日に出産した又は妊娠届を提出した人(約4,500人)
方法：出産・子育て応援金に係るアンケート

【アンケート調査における自由記載】

主な意見

① 出産前から子育てや金銭面に不安がある

- ・出産後に金銭的な心配がある。(出産費用が不明確, 保育料等)
- ・コロナで子育て・出産講座を受けられなかったのが残念。

② 出産・子育ての講座に参加したい

- ・母親学校に参加したいと思っている。土日祝に参加できるものが知りたい。
- ・親子参加のレクリエーションがたくさんあると嬉しい。

③ 産後のサポート体制を充実してほしい

- ・産後サポートを受けられず, 1人での育児が大変だった。
- ・親が近くにいるがプロではない。プロから助言が受けられるよう手厚くしてほしい。

④ 育休取得の際に障壁がある

- ・夫が育休を取ってくれたので, 子育ての大変さを共有できたが, 収入が減り, 思うように貯蓄ができない。
- ・夫は子育てに参加するため育休を申請したいが, 職場の理解が得られない。

⑤ 子育てがしやすくなるよう支援してほしい

- ・市が運営する子育て支援場所が少ない。子育て世帯への支援を増やしてほしい。
- ・保育園の入所が難しい。保育園に入れるか不安。
- ・様々な申請があり, 1人で行うのは大変。

⑥ 医療提供体制を充実してほしい

- ・超高齢出産ということもあり, 市外の病院に受診している。
- ・体調が悪くなった場合, どの病院に連絡したらよいのかわからない。

